

2025年度 履修要綱

経 営 学 部

経営学部の目的と教育目標

経営学部の目的

経営学部は、経営学、会計学、ファイナンスの領域におけるダイナミックに変化する諸問題を考究するとともに、経営実践の学修を通じてマネジメントに関する知的好奇心を引き出し、獲得した知識を現実社会に応用していく能力を持った人材の育成を目的とする。

経営学部経営学科の目的

経営学部経営学科は、経営実践の学修を通じて高度なマネジメント能力と戦略的思考を育み、高いモラルとコンプライアンス精神を持ち、地域の自立的な経済・社会の発展の新たな基盤形成に貢献しうる人材の育成を目的とする。

経営学部会計ファイナンス学科の目的

経営学部会計ファイナンス学科は、会計とファイナンスの領域における経営実践の学修を通じ、会計とファイナンスの領域にまたがる幅広い知識を身に付け、社会的ニーズをサポートする豊かな知識と高度なモラルを併せ持つ人材の育成を目的とする。

経営学部経営学科の教育目標

- (1) 変化する現実に対応可能なマネジメント能力を開発する。
- (2) ビジネス実践におけるモラルとコンプライアンス精神を育成する。
- (3) 環境適合・持続可能性の視点と行動における戦略的思考を育成する。
- (4) 実践教育を通じて協働の精神と自律する力を育成する

経営学部会計ファイナンス学科の教育目標

- (1) 会計とファイナンスの知識をベースとしたマネジメント能力を開発する。
- (2) 会計人、金融ビジネスパーソンとしてのモラルとコンプライアンス精神を育成する。
- (3) 会計とファイナンスの総合的な知識による環境適応能力を育成する。
- (4) 協働の精神と自律する力を持った会計人、金融ビジネスパーソンを育成する。

経営学部のディプロマ・ポリシーとカリキュラムポリシー

経営学部のディプロマ・ポリシー（学位授与方針）

経営学部では、先に掲げた学部の理念と教育目的に基づき、下記のディプロマ・ポリシー（学位授与方針）を設けています。この方針に従い、教育課程編成方針が立てられ、学科のカリキュラムが編成されます。その学びに参画する学生を求めため、学科のアドミッション・ポリシーが設定されています。

1. 会計ファイナンス学科のディプロマ・ポリシー（学位授与方針）

本学科は、以下の能力を修得した者に学士（経営学）の学位を授与します。

- (1)現代社会の諸問題に関する基礎的知識の上に会計とファイナンスに関する現代的、実践的な専門知識を修得している。
- (2)自らの思考、判断のプロセスや結果を説明するためのプレゼンテーションとコミュニケーションの技能を修得している。
- (3)会計人、金融ビジネスパーソンとしてのモラルとコンプライアンス精神を備え、社会の持続可能性を追求できる戦略的思考と論理的な問題解決能力を修得している。

2. 経営学科のディプロマ・ポリシー（学位授与方針）

本学科は、以下の能力を修得した者に学士（経営学）の学位を授与します。

- (1)現代社会の諸問題に関する基礎的知識の上に経営学に関する現代的、実践的な専門知識を修得している。
- (2)自らの思考、判断のプロセスや結果を説明するためのプレゼンテーションとコミュニケーションの技能を修得している。
- (3)ビジネス実践におけるモラルとコンプライアンス精神を備え、環境に適合する経営的、戦略的思考と論理的な問題解決能力を修得している。

経営学部のカリキュラムポリシー(教育課程編成方針)

経営学部では、以下のカリキュラムポリシー(学科の教育課程編成方針)に基づき、カリキュラ

ムを編成しています。

入学してくる学生実態や時代の変化、大学教育環境の変化などにより、設定されたカリキュラムに問題や限界が生じることがあります。その場合、カリキュラムポリシーに従いつつ、毎年の授業評価アンケート結果、学生とのFDフォーラム、また学生自治会との協議などを通じて集約された学生の学びの要望を考慮しつつ、カリキュラム改善の検討を不断に行います。

1. 会計ファイナンス学科のカリキュラムポリシー（教育課程編成方針）

【教育課程の編成方針】

教養教育として4つの科目群を体系的に設け、「基礎科目群」で現代社会を生きるための基礎力、「人文・社会・健康・自然科目群」で現代社会を豊かに生きるための教養、「キャリア・総合科目群」で生涯にわたって自律的に学び続ける力、「グローバル科目群」でグローバルな視野で社会に貢献できる力を修得する。

ディプロマ・ポリシーで掲げた目標を達成するための専門教育課程編成は次の通りである。

- (1)「基礎知識、実践的専門知識」を育成するため、基礎科目群、展開科目群、ゼミナール科目群を設ける。1年次から簿記他の資格取得科目を配置する。
- (2)「プレゼンテーションとコミュニケーション技能」を育成するため、4年間の一貫したゼミナールと国際科目群の中で少人数教育を徹底する。今日のグローバル化した社会に適応するために、国際科目群においてグローバル・コミュニケーション・スキルを磨く。
- (3)「戦略的思考、論理的問題解決能力」を育成するため、4年間の一貫したゼミナールの中で少人数教育を徹底する。

【学修方法】

- (1)資格科目を中心に習熟度別の指導を行う。基礎科目群、基本科目群、展開科目群、ゼミナール科目群、実践科目群間のカリキュラム・マップを読みやすく提示することで、それらの関連性を理解しやすくしたうえで、学修できるよう指導する。
- (2)1年ゼミでは、学修姿勢の涵養に努めるとともに、ビジネスの基礎を学習させる。このことによって、プレゼンテーションや議論をする基礎力をつける。上級学年では、各自の希望に基づき簿記・会計難関資格を目指すもの、ファイナンス関連等を学ぶもの、に大きく分かれる。いずれも、「実践的」であることを求め、プレゼンテーション・コミュニケーションの力が培われる。
- (3)現実の世界で真に実践的であるためには、目先の細部ばかりにとらわれず、長期的視野で理論的に現実を観察し考察する必要がある。実際、ほとんどの学生は2年生から4年生まで

同じゼミに属し、1年単位ではなく2年3年のより長期の単位で、自らの学修計画をたてる。その学修計画過程およびゼミで与えられるまたは自ら設定する課題に取り組むなかで、短期ではない「戦略的思考」「理論的問題解決能力」を身につけていく。

【評価方法】

- (1)基礎科目群においては、何回かの小テスト、小レポートを課すこと等で、理解度をチェックし、最終的に定期試験または最終レポートで評価を行う。展開科目群では、知識の吸収度合に加えてその応用力を問う課題を与え、これへの対応力をも評価の対象とする。
- (2)プレゼンテーションとコミュニケーションの能力は、教員ばかりでなく、ゼミの仲間および、学部の他者からの評価も参考に行われる。さらには、全国的な大学生による討論会に参加するゼミでは、他学の学生との討論内容をも評価の参考とする。
- (3)点数をとることも大事だが、本質的な理解に達しているかどうかを評価する。本質的に理解していれば、自分の言葉でそれを説明できる。たとえば、専門用語を使わずに、専門科目の学習内容を説明できるかどうかを評価する。ついで、その知識が、どのような分野とのつながりがあり、今後どのように展開していくかを考えることができるかどうかを評価する。

【初年次教育】

高大接続および上記専門教育課程への移行を円滑に行うために、特に簿記・会計科目において、習熟度別にクラス編成を行う。それによって、既修者はより先に進むことができ、初学者は基礎からこれを学ぶことができる。

2. 経営学科のカリキュラムポリシー（教育課程編成方針）

【教育課程の編成方針】

教養教育として4つの科目群を体系的に設け、「基礎科目群」で現代社会を生きるための基礎力、「人文・社会・健康・自然科目群」で現代社会を豊かに生きるための教養、「キャリア・総合科目群」で生涯にわたって自律的に学び続ける力、「グローバル科目群」でグローバルな視野で社会に貢献できる力を修得する。

専門教育では、経営学科の教育の目的に基づき、ビジネスを見る力を養い、ダイナミックに変化する社会の中から課題を発見し、その課題を解決し、自らのキャリアをデザインし実社会において行動できる力、ICTを利活用して情報をデザインし発信する力、高いコミュニケーション力を養う。

ディプロマ・ポリシーで掲げた目標を達成するための専門教育課程編成は次の通りである。

- (1)「現代的、実践的な専門知識」を育成するため、1年次から経営学基礎科目を配置し、2

年次には基本科目群、3年次に展開科目群を配置して段階的・体系的に専門知識を修得できるようにする。体験型学習である実践科目群を2、3年次に配当し、実践的な専門知識を修得できるようにする。ゼミナール学習と連動して効果的・確実な知識修得が可能になるようにする。

(2)「プレゼンテーションとコミュニケーション技能」を育成するため、4年間の一貫したゼミナール科目群とそれと連動した実践科目群、国際科目群、および情報系の専門科目を編成し配置する。特に、今日のグローバル化した社会に適応するために、国際科目群においてグローバル・コミュニケーション・スキルを磨く。

(3)「問題解決能力」を育成するため、現実社会における課題発見力・解決力を養う場としての体験型の実践科目群を編成し配置する。これらを専門教育課程の中心におき、それと連動する専門科目を配置する。

【学修方法】

(1)基礎科目群、基礎ゼミナールは全員が履修し、2年次以降は経営管理専攻とキャリア・マーケティング専攻に分け、より専門的・実践的な学習に専念できるようにする。専門科目の基礎科目群で座学による基礎的な知識を修得し、少人数のゼミナール教育が連動して応用力の修得に結びつける。基本科目群・展開科目群はそれぞれの専門領域の現代的テーマ・素材に基づいて展開する。

(2)ゼミナールでは現代的な経営の諸テーマについて調べ、議論し、報告することを中心に展開する。情報系の専門科目でプレゼンテーション能力を修得する一方、専門科目でもグループ・ディスカッションやグループ・テーマによるプレゼンテーションの機会を取り入れる。

(3)フィールド実践では対象地域の課題発見、課題解決の政策提言を中心とするフィールドワークを展開し、地域課題解決型、地域貢献型のプロジェクト実践を配置する。就業力を高めるマーケティング実践では、ボランティア、地域貢献により課題解決能力を高める。

【評価方法】

(1)基礎・基本・展開科目群では小レポート、レポート課題、グループ・ディスカッション、プレゼンテーション、定期試験など多様な方法により評価する。

(2)ゼミナールではゼミ活動への参加度、課題の実行、ディスカッションへの参加度など、個々の学生の個性と努力を見極め、多様でありながら適正な評価をする。

(3)実践科目では活動への参加度を基本とし、活動への関わり方を重視して学生の成長度合いとその意識化を見て総合的に評価する。

【初年次教育】

高大接続および上記専門教育課程への移行を円滑に行うために、以下の初年次教育を行う。

- (1)少人数教育である基礎ゼミナールを配置し、アカデミック・スキルの修得を確実なものにする。
- (2)学部教員がその専門領域のみならず、広く文化と経営についての講義をリレー形式で展開し、学部への帰属意識や教員とのコミュニケーション、また教養を高める学習を展開する。
- (3)基礎科目群を1年次に配置し、専門科目への興味・関心を引き出すようにする。

会計ファイナンス学科のアドミSSION・ポリシー

本学科は、以下の能力を身につけている者を受け入れます。

- (1)高等学校卒業に相当する学力を身につけていること。具体的には、高校で履修する国語、外国語、理科、数学、地理歴史・公民などの社会科科目の内容を理解していること。
- (2)会計やファイナンス（企業金融や投資理論）について、考察し理解していること。
- (3)グローバル化したビジネスや地域の発展について、自らの考えを的確に表現し、伝えられること。
- (4)簿記・会計を中心とした資格取得に取り組む意欲があること。
- (5)会計・ファイナンスを学び、ビジネス感覚を身につける意欲があること。

経営学科のアドミSSION・ポリシー

本学科は、以下の能力を身につけている者を受け入れます。

- (1)高等学校卒業に相当する学力を身につけていること。具体的には、高校で履修する国語、外国語、理科、数学、地理歴史・公民などの社会科科目の内容を理解していること。
- (2)企業経営や人間の経営行動、消費行動について考察し、理解していること。
- (3)グローバル化したビジネスや地域の発展について、自らの考えを的確に表現し、伝えられること。
- (4)経営学科で行なうフィールド実践に率先して参加し、経営実践の学修に取り組む意欲があること。
- (5)経営学を学び、ビジネス感覚を身につける意欲があること。

2025年度

経営学部

I. 経営学部の履修上の必要事項

1. 経営学部専門科目の特徴

経営学部で学ぶ専門科目は何よりも実践的な性格を持っています。それは経営学部で学ぶ対象が一定の目的を持った人間の集合である経営体だからです。21世紀を迎えて経済活動の領域において金融の果たす役割が急速な勢いで拡大しています。また経営体の運営・管理を計数的に把握する会計の役割も日増しに高まっています。

札幌学院大学の経営学部では、経営学科と会計ファイナンス学科の2学科体制でもって現代社会が求める新しい課題について学生諸君とともに学び、研究するカリキュラムを提供します。

経営学部の専門科目は、新入生に対する入門科目として**基礎科目群**、2・3年生を対象とした専門的な**基本科目群**、さらに3・4年生を対象とした応用的実践的な内容を持つ**展開科目群**を配置し、学習内容を学年に応じて無理なく高めるように編成されています。学生諸君は基礎科目→基本科目→展開科目という順序で学年に応じて履修することになります。

また、すべての学年にクラスとしての機能を持つ少人数の**ゼミナール科目群**が置かれ、担当の教員を通じて、コミュニケーション能力の向上を目指した、きめ細かな教育指導を受けることになります。

経営学科では、より実践的な体験型教育の内容を持つ**実践科目群**や、グローバルな教育内容を持つ**国際科目群**が開講されます。

2. 履修必修科目

<2018年度以降入学生>

区分	科目名	配当学年	開講期間	単位
教養科目	論述・作文A	1	前期	2
	論述・作文B	1	後期	2
	コンピュータ基礎A	1	前期	2
	コンピュータ基礎B	1	後期	2
専門科目	経営学入門 I	1	前期	2
	基礎ゼミナール I	1	前期	2
	基礎ゼミナール II	1	後期	2
	専門ゼミナール I	2	前期	2

区分	科目名	配当学年	開講期間	単位
教養科目	英語 I A	1	前期	1
	英語 I B	1	後期	1
	英語 II A	1	前期	1
	英語 II B	1	後期	1
	初級韓国語A	1	前期	1
	初級韓国語B	1	後期	1
	初級韓国語C	1	前期	1
	初級韓国語D	1	後期	1
	初級中国語A	1	前期	1
	初級中国語B	1	後期	1
	初級中国語C	1	前期	1
	初級中国語D	1	後期	1

※入学時、上記の3ヶ国語より1ヶ国語を選択し履修する。

3. 各種簿記検定による単位認定

高校での学習や自主的な学習によって、各種簿記検定ですでに資格を取得している新入生を対象に、下記の要領にて単位を認定する。

1. 取得した資格と認定する専門科目

資格名称	認定科目と単位数
[資格Ⅰ] 日商簿記検定3級 全経簿記能力検定2級 のいずれか 全商簿記実務検定2級	個人企業会計基礎(4単位)
[資格Ⅱ] 日商簿記検定2級 全経簿記能力検定1級 のいずれか 全商簿記実務検定1級	個人企業会計基礎(4単位) 株式会社会計基礎(4単位) の計8単位

2. 履修登録との関係

履修登録制限(48単位)の枠外で認定する。

3. 認定の申請時期と方法

4月授業開始時に、教育支援課にて「経営学部における各種簿記検定による単位認定申請書」により申請する。

4. ゼミナール

ゼミナールは少人数教育の体制をとり、それぞれの指導教員による、より専門的かつより密接な指導が行われる。4年間の学習の中心となる。

経営学部のゼミナールは1年次の「基礎ゼミナールⅠ・Ⅱ」、2年次の「専門ゼミナールⅠ・Ⅱ」、3年次の「応用ゼミナールⅠ・Ⅱ」そして4年次の「応用ゼミナールⅢ」「卒業論文」と、1年次から4年次までの一貫したゼミナール体制となっている。

学生は主体的にゼミナールに参加し、自己形成と自己学習能力の向上をはからなければならない。そのため、ゼミナールの履修を次のように取り扱う。

- (1) 1年次「基礎ゼミナールⅠ・Ⅱ」は、大学生としての基本的なスキルを学ぶことが中心となる。半期2単位とし、前期、後期2つのゼミナールを履修する。1年生全員が履修登録を行う。
- (2) 2年次「専門ゼミナールⅠ・Ⅱ」は、自己の専門を決めるための段階で、専門基礎の学習が中心となる。半期2単位とし、前期、後期2つのゼミナールを履修する。前期は2年生全員が履修登録を行う。

- (3) 3年次「応用ゼミナールⅠ・Ⅱ」は、半期2単位とし、前期、後期2つのゼミナールを履修する。
- (4) 4年次「応用ゼミナールⅢ」は、半期2単位とし、前期のゼミナールを履修する。
- (5) 4年次「卒業論文」は、通年4単位として履修する。
- (6) 2年次以降の「ゼミナール」「卒業論文」は、履修届を提出する前に指導教員の承認を得なければならない。

5. 卒業論文

経営学部における卒業論文の取り扱いについては以下による。

- (1) 卒業論文を作成提出する者は、原則として第3・4年次に継続して「応用ゼミナール」「卒業論文」を履修し、担当教員の指導を受けるものとする。
- (2) 卒業論文の単位の認定は、担当教員が論文審査にあたり、面接試問の上、合否の判定が行われる。合格した論文の評価は、S(秀)・A(優)・B(良)・C(可)とする。
- (3) 「卒業論文」の履修登録は、卒業年次(卒業見込年次)の所定期間に行うものとする。
 - ① 論文の作成予定者は、その担当教員へ「卒業論文」履修登録に先だち、“過去3年間(第4年次まで)の学修の総括と現時点での問題意識”などを2,000字前後にまとめ提出する。
 - ② その担当教員は、論文提出の基礎能力及び履修要件の可否等について判断の上、「卒業論文」履修登録を許可(押印)する。
 - ③ 履修登録に関しては、「卒業論文」以外の科目と同様の手続が必要。
- (4) 卒業論文は、本学所定の原稿用紙を用いて作成し、以下の要領にて提出する。
 - ① 論文の筆記はペン又はボールペンを用い、目次をつけ頁数を必ず記入すると共に、文献の引用はその出典を必ず明記する。(原稿のコピー及び鉛筆の筆記は認めない)
 - ② 表紙には、テーマ、指導教員名、提出者氏名、提出年月日を記入すること。なお、クロス表紙、黒ひも、背表紙、表紙に貼るラベル等は、生協でセット販売している。
- ③ ワープロ使用の場合は、原則として本学所定の原稿用紙を用いるが、ワープロ用紙を使用しても良い。ただし、用紙はA4サイズを使用し、書式は縦30～40行×横40字以内、上部余白4cm程度、下部余白・左右余白ともに3cm程度とることとする。
- (5) 提出期限は卒業年次の1月の第3木曜日 16:40、提出先は教育支援課とする。
- (6) ただし、前期集中開講で行われる「卒業論文」の提出期限は、8月の第4水曜日 16:40、提出先は教育支援課とする。
- (7) 卒業年次(4年次)で「卒業論文」の履修届が出ていて、その年度に提出できなかった場合又は提出したが所定の水準に達しなかった場合には、次年度において指導教員の確認を得られた者のみ、前期に提出することができる(卒業延期者で前期末卒業生に該当)。
この場合の前期提出期限は、8月の第4木曜日 16:40、提出先は教育支援課とする。
- (8) 提出された卒業論文は、本学図書館又は担当教員の所で保管し、学生の利用に供するものとする。

6. 再試験制度

経営学部においては、卒業年次生を対象に再試験を実施している。

再試験は、最終評価で不合格になった科目に対して行う試験で、次の要領で実施する。

(1) 対象者(以下の要件をすべて満たす者)

- ① 卒業年次生であること。
- ② 卒業に必要な修得単位数を、あと8単位以内で満たすことができる者。
- ③ 再試験受験にあたっては、当該科目担当教員の指示に従う者。

(2) 対象科目

再試験の対象科目は、D評価かつ得点が30点以上で不合格になった経営学部専門科目で、卒業に必要な修得単位数の不足単位分とする(ただし、夏期・冬期集中科目、前期終了科目、基礎ゼミナール、専門ゼミナール、応用ゼミナール、卒業論文、実験・実習科目、教職関連科目、教養科目を専門科目とみなしている科目※は再試験対象科目とはしない)。

※職業と人生A・B・C・D、キャリアデザイン演習A・B、地域貢献A・B・C・D、地域貢献活動A・B・C・D、異文化グループワークA・B、プロジェクトマネジメント入門、海外スタディI・II、グローバルインターンシップI・II、グローバルボランティアI・II

(3) 評価

評価については、所定の基準により通減措置をとります(最高で60点C評価)。

(4) 再試験手続

再試験を受験する者は、卒業発表当日の窓口時間中に、再試験料(1科目1,000円)を納入し、教育支援課経営学科窓口に再試験願を提出します。いかなる理由があっても期限や受付方法の変更には応じません。

(5) その他

- ① 再試験に対する追試験は実施しない。
- ② 前期末卒業時の再試験は実施しない。

7. オフィスアワー

オフィスアワーとは、学生の皆さんから学業や学生生活などについて質問・相談に応じるために、各教員が設けた時間帯のことです。教員は、授業・会議・出張等で不在の場合がありますが、オフィスアワーの時間帯には、研究室に在室していますので、学生の皆さんは研究室を訪ね、授業についての質問、学習方法、履修、今後の進路など様々な相談をすることができ、個別に指導を受けることができます。

各教員のオフィスアワーの時間帯と研究室の場所は、Webシラバスに掲載しています。積極的に利用してください。

Ⅱ. 経営学科専門科目

1. 経営学科カリキュラムの特徴

《必ず理解しておくべき卒業のためのルール》

- ① 経営学科の授業科目は教養科目と専門科目に大別されます。教養科目は大学卒業者に求められる幅広い教養を身に付ける科目で、**教養科目から 24 単位以上**修得することが、経営学科を卒業するために必要となります。一方、専門科目は経営学科の卒業者に求められる経営の知識を体系的に学ぶ科目で、指定の**専門科目から 80 単位以上**修得することが、経営学科を卒業するために必要となります。教養科目は 24 単位以上の修得、専門科目は 80 単位以上の修得、という条件を満たし、かつ教養科目と専門科目を合わせて **124 単位以上**を修得することで、経営学科を卒業することができます。
- ② 1 年次に履修するゼミナール以外の専門科目は、経営学部で学習する内容を幅広く紹介する「経営学入門Ⅰ」と「経営学入門Ⅱ」、そして簿記・会計に関わる「ファイナンス入門」などの科目からなる基礎科目群から **6 単位以上**を修得してください。
- ③ 経営学科のカリキュラムは、少人数教育の場であるゼミナール科目群と実践教育の場である体験型の実践科目群を中心に編成されています。通常、ゼミナールと実践科目は連動していますので、学習したい実践科目を選ぶと、ゼミナールも同時に選択することになります。これらの 2 つの科目群から卒業するために修得しなければならない単位数は **6 単位以上**です。
- ④ 経営学科で上記①②以外の専門科目として開講している科目は、基本科目群と展開科目群と国際科目群という区分で設置されています。ここに最も多い専門科目数が設置されていますが、卒業するために最低 **20 単位以上**を修得する必要があります。

《他にはない経営学科の特徴》

現在、就職活動ではいったいどのような力を企業から求められているのでしょうか？

それは、混沌とした状況から自ら問題を発見して、その問題を自ら解決できる能力が問われているのです。経営学科はその問題発見および解決能力を養うカリキュラム編成となっており、その中核に「実践科目群」があります(上記の③)。実践科目群は、地域の企業や自治体・非営利組織などと連携して学生が主体的に学ぶもので、経営学部の前身である商学部において、20 年にわたって取り組まれてきた調査実習の蓄積をベースにしています。

現場で何が起きているのか、そして何が必要とされているのかを体感することで、それを大学での学びに活かそうとする強い意志が生まれます。2013 年度入学生から「実践科目群」は「フィールド実践」「マーケティング実践」「プロジェクト実践」に分かれており、各自の関心や将来の目標を検討しながら選択することになります。この学びをあなたの経営学科での学びの中核にできるように頑張ってください。

2. 経営学科の卒業要件

<2018年度以降入学生>

授業科目の区分		最低必要単位数	
教養科目	基礎科目群	8 単位以上	合計 24 単位以上
	人文・社会・健康・ 自然科目群		
	キャリア・総合科目群		
	グローバル科目群		
専門科目	基礎科目群	6 単位以上	合計 80 単位以上
	ゼミナール科目群	6 単位以上	
	実践科目群		
	基本科目群	20 単位以上	
	展開科目群		
国際科目群			
自由選択科目			※
			合計 124 単位以上

※ 他学部・他学科授業科目の単位を修得した場合、自由選択科目として、20 単位を上限に卒業要件(最低必要単位数)に含めることができる。

3. 経営学科の授業科目一覧表

<2019～2020年度入学生>

区分	1年次	2年次	3年次	4年次		
教養科目	英語ⅠA・ⅡA 英語ⅠB・ⅡB 初級独語A・B・C・D 初級仏語A・B・C・D 初級中国語A・B・C・D 初級韓国語A・B・C・D	英語ⅢA・ⅣA 英語ⅢB・ⅣB 応用英語A・B・C・D 応用独語A・B・C・D 応用仏語A・B・C・D 応用中国語A・B・C・D 応用韓国語A・B・C・D			8単位 以上修得	合計 24 単位 以上 修得
	論述・作文A 論述・作文B コンピュータ基礎A コンピュータ基礎B	コンピュータ応用A コンピュータ応用B コンピュータ応用C				
	哲学、倫理学、宗教学、日本史、日本近代史、北海道史、世界史A・B、世界の民族音楽、 東洋の美術、ヨーロッパの美術、世界の言語と日本語、言語と社会、言語と数理、日本文学、 外国文学、現代と法、日本国憲法、人権論、くらしと現代経済、社会学、北海道社会論、 アジア事情A、アジア事情B、教育学、現代の福祉、現代と情報、心理学、健康科学、スポーツと健康、 統計学、物理学、地学、地球の科学、生命科学、生態化学、環境論					
キャリア・総合科目群	スポーツA キャリア数学A	スポーツB キャリア数学B				
		キャリア数学C				
		企業の経営と仕事				
	教養ゼミナールA・B					
		全学共通特別演習A・B				
グローバル科目群	TOEICトレーニングA・B・C・D、日本語を教えるA・B					

科目区分	1年次	2年次	3年次	4年次		
基礎科目群	経営学入門Ⅰ 経営学入門Ⅱ 会計学入門 ファイナンス入門Ⅰ ファイナンス入門Ⅱ 個人企業会計基礎 株式会社会計基礎 個人企業会計基礎演習 株式会社会計基礎演習				6単位 以上修得	合計 80 単位 以上 修得
	基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ	専門ゼミナールⅠ 専門ゼミナールⅡ	応用ゼミナールⅠ 応用ゼミナールⅡ	応用ゼミナールⅢ 卒業論文		
実践科目群		フィールド実践Ⅰ フィールド実践Ⅱ マーケティング実践Ⅰ マーケティング実践Ⅱ プロジェクト実践Ⅰ プロジェクト実践Ⅱ	フィールド実践Ⅲ マーケティング実践Ⅲ プロジェクト実践Ⅲ		6単位 以上修得	
		職業と人生A、キャリアデザイン演習A、地域貢献活動A・B・C・D、地域貢献活動A・B・C・D				
		職業と人生B、キャリアデザイン演習B	職業と人生C、職業と人生D			
基本科目群	経営管理概論 流通概論 マーケティング概論	流通応用論、経営戦略論、 人事管理概論、消費者行動論、ロジスティクス論、 ITソリューション論、リスクマネジメント論Ⅰ、 財務会計総論、金融システム論、証券市場論、 中小企業論、ITコーディネート論、 ファイナンシャルプランⅠ、 ファイナンシャルプランⅡ、会社法、 ビジネス英語、ビジネス韓国語、ビジネス中国語、 ビジネス数学Ⅰ、職業指導、商業概論			20単位 以上修得	
		マーケティング戦略論 経営管理論、経営組織論、起業論、 人的資源管理論、マーケティング・リサーチ、 交通論、ITコーディネート応用論、 ITソリューション応用論、 リスクマネジメント論Ⅱ、ボランティアマネジメント論、 中小企業金融論、地域金融論、国際金融論、 保険論、ビジネス数学Ⅱ、 キャリアマーケティング、キャリアデザインⅠ、 キャリアデザインⅡ、インターンシップ 地域金融特別講義				
国際科目群	異文化グループワークA、異文化グループワークB、プロジェクトマネジメント入門、短期国際インターンシップA 海外スタディⅠ、グローバルインターンシップⅠ、グローバルボランティアⅠ					
	海外スタディⅡ、グローバルインターンシップⅡ、グローバルボランティアⅡ 短期国際インターンシップB(4年生は履修不可) 長期国際インターンシップ(4年生は履修不可)					

<2018年度入学生>

区分	1年次	2年次	3年次	4年次		
基礎科目群	英語ⅠA・ⅡA 英語ⅠB・ⅡB 初級独語A・B・C・D 初級仏語A・B・C・D 初級中国語A・B・C・D 初級韓国語A・B・C・D	英語ⅢA・ⅣA 英語ⅢB・ⅣB 応用英語A・B・C・D 応用独語A・B・C・D 応用仏語A・B・C・D 応用中国語A・B・C・D 応用韓国語A・B・C・D			8単位 以上修得	
	論述・作文A 論述・作文B コンピュータ基礎A コンピュータ基礎B	コンピュータ応用A コンピュータ応用B コンピュータ応用C				
人文・社会・健康・自然科目群	哲学、倫理学、宗教学、日本史、日本近代史、日本史概説、北海道史、東洋史概説、西洋史概説、世界史A・B、地誌学概説、人文地理学概説、世界の民族音楽、東洋の美術、ヨーロッパの美術、世界の言語と日本語、言語と社会、言語と数理、日本文学、外国文学、現代と法、日本国憲法、人権論、法学概説、くらしと現代経済、経済学概説、社会学、北海道社会論、アジア事情A、アジア事情B、教育学、現代の福祉、現代と情報、心理学、健康科学、スポーツと健康、統計学、物理学、地学、地球の科学、自然地理学概説、生命科学、生態化学、環境論					合計 24単位 以上修得
キャリア・総合科目群	キャリア数学A	キャリア数学B	キャリア数学C	企業経営と仕事		
グローバル科目群	TOEICトレーニングA・B・C・D、日本語を教えるA・B					

科目区分	1年次	2年次	3年次	4年次		
基礎科目群	経営学入門Ⅰ 経営学入門Ⅱ 会計学入門 ファイナンス入門Ⅰ ファイナンス入門Ⅱ 個人企業会計基礎 株式会社会計基礎 個人企業会計基礎演習 株式会社会計基礎演習				6単位 以上修得	
ゼミナール科目群	基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ	専門ゼミナールⅠ 専門ゼミナールⅡ	応用ゼミナールⅠ 応用ゼミナールⅡ	応用ゼミナールⅢ 卒業論文	6単位 以上修得	合計 80単位 以上修得
実践科目群		フィールド実践Ⅰ フィールド実践Ⅱ マーケティング実践Ⅰ マーケティング実践Ⅱ プロジェクト実践Ⅰ プロジェクト実践Ⅱ	フィールド実践Ⅲ マーケティング実践Ⅲ プロジェクト実践Ⅲ			
		職業と人生A、キャリアデザイン演習A、地域貢献A・B・C・D、地域貢献活動A・B・C・D				
		職業と人生B、キャリアデザイン演習B				
		職業と人生C、職業と人生D				
基本科目群	経営管理概論 流通概論 マーケティング概論	流通応用論、経営戦略論、 人事管理概論、消費者行動論、ロジスティクス論、 ITコーディネータ論、ITソリューション論 リスクマネジメント論Ⅰ、財務会計総論、 金融システム論、証券市場論、中小企業論、 ファイナンシャルプランⅠ、ファイナンシャルプランⅡ、 会社法、金融商品取引法、ビジネス英語、 ビジネス韓国語、ビジネス中国語、 ビジネス数学Ⅰ、職業指導、商業演習			20単位 以上修得	
展開科目群		マーケティング戦略論	経営管理論、経営組織論、起業論、 人的資源管理論、マーケティングリサーチ、 交通論、ITコーディネータ応用論、 ITソリューション応用論、 リスクマネジメント論Ⅱ、ボランティアマネジメント論、 中小企業金融論、地域金融論、国際金融論、 保険論、コーポレートファイナンス、ビジネス数学Ⅱ、 キャリアマーケティング、キャリアデザインⅠ、 キャリアデザインⅡ、インターンシップ 地域金融特別講義			
国際科目群	異文化グループワークA、異文化グループワークB、プロジェクトマネジメント入門、海外スタディⅠ、 グローバルインターンシップⅠ、グローバルボランティアⅠ、短期国際インターンシップA 海外スタディⅡ、グローバルインターンシップⅡ、グローバルボランティアⅡ 短期国際インターンシップB(4年生は履修不可) 長期国際インターンシップ(4年生は履修不可)					

[経営学科の教育目標]

- (1) 変化する現実に適応可能なマネジメント能力の開発。
- (2) ビジネス実践におけるモラルとコンプライアンス精神の育成。
- (3) 環境適合・持続可能性の視点と行動における戦略的思考の育成。
- (4) 実践教育を通じて協働の精神と自律する力の育成

4. 経営学科カリキュラムマップ

教育目標	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
(1)	経営学入門Ⅰ	→ 経営学入門Ⅱ					経営組織論	
	ファイナンス入門Ⅰ	→ ファイナンス入門Ⅱ	リスクマネジメント論Ⅰ	→	リスクマネジメント論Ⅱ			
		流通概論	→ 流通応用論					
(2)		経営管理概論				経営管理論		
			会社法					
		職業と人生A	→ 職業と人生B	職業と人生C	職業と人生D			
	基礎ゼミナールⅠ	→ 基礎ゼミナールⅡ	→ 専門ゼミナールⅠ	→ 専門ゼミナールⅡ	→ 応用ゼミナールⅠ	→ 応用ゼミナールⅡ	→ 応用ゼミナールⅢ	
(3)	個人企業会計基礎	→ 株式会社会計基礎						
	個人企業会計基礎演習	→ 株式会社会計基礎演習						
			証券市場論					
		マーケティング概論	→ マーケティング戦略論					
		会計学入門		経営戦略論	→		起業論	
			財務会計総論	消費者行動論	→	マーケティング・リサーチ		
			人事管理概論	ロジスティクス論	→		人的資源管理論	
			中小企業論		→		中小企業金融論	
				地域金融特別講義	→			
			金融システム論				国際金融論	
	英語ⅠA・B	英語ⅡA・B	英語ⅢA・B	英語ⅣA・B	保険論			
	初級韓国語	応用韓国語	ビジネス英語	長期国際インターンシップ				
初級中国語	応用中国語		ビジネス韓国語					
短期国際インターンシップA	短期国際インターンシップB		ビジネス韓国語					
(4)			フィールド実践Ⅰ	→ フィールド実践Ⅱ	→	フィールド実践Ⅲ		
			マーケティング実践Ⅰ	→ マーケティング実践Ⅱ	→	マーケティング実践Ⅲ		
			プロジェクト実践Ⅰ	→ プロジェクト実践Ⅱ	→	プロジェクト実践Ⅲ		
			ファイナンシャルプランⅠ	→ ファイナンシャルプランⅡ				
	地域貢献A	地域貢献B	地域貢献C	地域貢献D				
	地域貢献活動A	地域貢献活動B	地域貢献活動C	地域貢献活動D				
				ビジネス数学Ⅰ	→	ビジネス数学Ⅱ		
			職業指導 商業演習			キャリアマーケティング		
	プロジェクトマネジメント入門				キャリアデザインⅠ	→	キャリアデザインⅡ	
		海外スタディⅠ		海外スタディⅡ				
		グローバルボランティアⅠ		グローバルボランティアⅡ				
		グローバルインターンシップⅠ		グローバルインターンシップⅡ				
異文化グループワーク	異文化グループワーク			インターンシップ		卒業論文		
それ以外の教養科目								

経営学部経営学科専門科目開講一覧表

2019～2020年度入学生

(参考)2025年度以降入学生 2021～2024年度入学生 2019～2020年度入学生

区分	授業科目名	授業科目名	授業科目名	単位	学年	期間	担当者	備考
基礎科目群	経営学入門		経営学入門Ⅰ	2	1	前期	平野 実	
	現代ビジネス論(2)		経営学入門Ⅱ	2	1	前期	確井 和弘	リレー講義 (1)は履修不可
	会計学入門			2	1	後期	長岡 正	
			ファイナンス入門Ⅰ	2	1	—	—	以降休講
			ファイナンス入門Ⅱ	2	1	—	—	以降休講
	簿記Ⅰ		個人企業会計基礎	4	1	前期週2	(1)坂口 勝幸 (2)宮津 尚美	
	簿記Ⅱ		株式会社会計基礎	4	1	前期週2	坂口 勝幸	
			個人企業会計基礎演習	2	1	—	—	以降休講
		株式会社会計基礎演習	2	1	—	—	以降休講	
ゼミナール科目群	基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ			2 2	1 1	前期 後期	確井 和弘 河西 邦人 川渕 正広 岸本 宜久 後藤 英之 坂口 勝幸 邵 藍蘭 長岡 正 橋長 真紀子 平野 実 黄 昕 矢川 美恵子 吉川 哲生	
	専門ゼミナールⅠ 専門ゼミナールⅡ			2 2	2 2	前期 後期	確井 和弘 河西 邦人 後藤 英之 坂口 勝幸 邵 藍蘭 長岡 正 橋長 真紀子 平野 実 黄 昕 矢川 美恵子 吉川 哲生	
	応用ゼミナールⅠ 応用ゼミナールⅡ			2 2	3 3	前期 後期	確井 和弘 河西 邦人 後藤 英之 坂口 勝幸 邵 藍蘭 長岡 正 橋長 真紀子 黄 昕 矢川 美恵子 吉川 哲生	
	応用ゼミナールⅢ			2	4	前期	確井 和弘 河西 邦人 後藤 英之 坂口 勝幸 邵 藍蘭 長岡 正 橋長 真紀子 黄 昕 矢川 美恵子 吉川 哲生	
	卒業論文			4	4	通年	確井 和弘 河西 邦人 邵 藍蘭 長岡 正 吉川 哲生	
	プロジェクト実践Ⅰ プロジェクト実践Ⅱ	フィールド実践Ⅰ フィールド実践Ⅱ プロジェクト実践Ⅰ プロジェクト実践Ⅱ マーケティング実践Ⅰ マーケティング実践Ⅱ		2 2	2 2	前期 後期	確井 和弘 河西 邦人 後藤 英之 橋長 真紀子 平野 実 黄 昕 吉川 哲生	
フィールド実践	フィールド実践Ⅲ プロジェクト実践Ⅲ マーケティング実践Ⅲ		4	3	通年	確井 和弘 河西 邦人 後藤 英之 橋長 真紀子 黄 昕 吉川 哲生		
実践科目群	2021～2024年度入学生は自由選択科目 2025年度以降入学生は教養科目として履修可能		地域貢献A	2	1	前期	(1)浅沼、濱野 (2)林 匡宏	
			地域貢献C	2	1	後期	林 匡宏	
			地域貢献活動A	1	1	前期	教務部長	単位認定科目
			地域貢献活動B	1	1	—	—	2024年度休講
			地域貢献活動C	1	1	後期	教務部長	単位認定科目
			地域貢献活動D	1	1	—	—	2024年度休講
	2025年度以降は 教養科目として履修可能		職業と人生A	2	1	後期	別当屋敷 美穂	
			職業と人生B	2	2	前期	別当屋敷 美穂	
		職業と人生C	2	3	前期	(1)廣崎 匡		
		職業と人生D	2	3	後期	(2)平野 恵子		
		キャリアデザイン演習A	2	1	後期	松代 弘之		
		キャリアデザイン演習B	2	2	前期	松代 弘之		

(参考)2025年度以降入学生 2021~2024年度入学生 2019~2020年度入学生

区分	授業科目名	授業科目名	授業科目名	単位	学年	期間	担当者	備考
基本科目群			経営管理概論	2	1	-	-	以降休講
		流通論(2)	流通概論	2	1	後期	碓井 和弘	(1)は2025年度以降入学生のみ
		マーケティング概論		2	1	後期	後藤 英之	
			流通応用論	2	2	-	-	以降休講
		経営戦略論		2	2	後期	平野 実	
		人事管理概論		2	2	前期	黄 昕	
		消費者行動論		2	2	後期	橋長 真紀子	
		物流論	ロジスティクス論	2	2	前期	長岡 正	
			ITコーディネート論	2	2	後期	赤羽 幸雄	
			ITソリューション論	2	2	前期	渡邊 愼哉	
			リスクマネジメント論 I	2	2	-	-	以降休講
		財務会計論	財務会計総論	4	2	後期週2	邵 藍蘭	
			金融システム論	4	2	-	-	以降休講
			証券市場論	4	2	-	-	以降休講
			中小企業論	2	2	後期	三好 元	
		ファイナンシャルプラン I		2	2	前期	中谷 俊雄	
		ファイナンシャルプラン II		2	2	後期	中谷 俊雄	
			会社法	4	2	-	-	以降休講
			ビジネス英語	2	2	後期	橋長 真紀子	
			ビジネス韓国語	2	2	後期	吉川 敬花	
			ビジネス中国語	2	2	後期	黄 昕	
			ビジネス数学 I	2	2	-	-	以降休講
		職業指導 I・II	職業指導	4	2	通年	川淵 正広	教職関連科目
		商業概論 I・II	商業概論	4	2	通年	川淵 正広	教職関連科目
専門科目		マーケティング戦略論	2	2	前期	後藤 英之		
		経営管理論(2)	2	3	後期	平野 実	(1)は2025年度以降入学生のみ	
		経営組織論	2	3	前期	河西 邦人	2025年度開講(隔年開講)	
		ベンチャー起業論	起業論	2	3	前期	河西 邦人	2025年度休講(隔年開講)
		人的資源管理論		2	3	後期	黄 昕	
		マーケティング・リサーチ		2	3	前期	橋長 真紀子	
		交通論		2	3	後期	藤田 知也	
		ITコーディネート応用論		2	3	後期	赤羽 幸雄	
		ITソリューション応用論		2	3	後期	渡邊 愼哉	
			リスクマネジメント論 II	2	3	-	-	以降休講
		ボランティアマネジメント論		2	3	前期	草野 竹史	
			中小企業金融論	4	3	-	-	以降休講
			地域金融論	2	3	-	-	以降休講
			国際金融論	4	3	通年	吉川 哲生	
			保険論	4	3	-	-	以降休講
			ビジネス数学 II	2	3	-	-	以降休講
			キャリアデザイン I	2	3	-	-	以降休講
			キャリアデザイン II	2	3	-	-	以降休講
		キャリアマーケティング		2	3	後期	碓井 和弘	
			インターンシップ	4	3	-	-	以降休講
			地域金融特別講義	2	3	-	-	以降休講
	国際科目群		異文化グループワークA	2	1	前期	白石、ヒンクルマン	
			異文化グループワークB	2	1	-	-	2025年度休講
			プロジェクトマネジメント入門	2	1	前期前半 後期後半	(1)櫻澤、勝部 (3)櫻澤、勝部	(2)は履修不可
		海外スタディ I	2	1	後期 通年	(1)黄 昕 (2)諸 洪一 (3)ハメット D.A.		
		海外スタディ II	2	1	後期 通年	(1)黄 昕 (2)諸 洪一		
		グローバルインターンシップ I	2	1	通年 前期	(1)白石・早川 (2)ヒンクルマン D.W.		
		グローバルインターンシップ II	2	1	通年 後期	(1)白石・早川 (2)ヒンクルマン D.W.		
		2025年度以降入学生は 教養目として履修可能	グローバルボランティア I	2	1	-	-	2025年度休講
		2025年度以降入学生は その他科目として履修可能	グローバルボランティア II	2	1	-	-	2025年度休講
			短期国際インターンシップ A	4	1	通年集中	橋長・矢川	夏期休暇期間
			短期国際インターンシップ B	4	1~3	後期集中	橋長・矢川	春期休暇期間
			長期国際インターンシップ	16	2~3	後期集中	橋長・矢川	

※各科目の定員は情報ポータル履修登録画面を確認してください。

※「短期国際インターンシップB」および「長期国際インターンシップ」は、成績の決定が次年度になります。
そのため4年生での履修はできません。なお、4年生でも、休学等によって卒業年次に該当しない場合、履修を認めることがあります。

※2018~2020年度経営学部経営学科入学生については、以下の科目を専門科目として認定します。
職業と人生A・B・C・D、キャリアデザイン演習A・B、地域貢献A・B・C・D、地域貢献活動A・B・C・D、異文化グループワークA・B、海外スタディ I・II
プロジェクトマネジメント入門、グローバルインターンシップ I・II、グローバルボランティア I・II

Ⅲ. 会計ファイナンス学科専門科目

1. 会計ファイナンス学科カリキュラムの特徴

会計ファイナンス学科のカリキュラムは、各種資格取得を目標とした科目を中心に編成されています。1年次に履修する基礎科目では、日商簿記の各級検定試験合格を目指す科目が配置されています。個人企業会計基礎、個人企業会計基礎演習（日商簿記3級）、株式会社会計基礎、株式会社会計基礎演習（日商簿記2級）、製造業会計基礎（日商簿記2級）です。また、ファイナンス入門Ⅱでは証券外務員2種試験に対応した講義がおこなわれます。会計ファイナンス学科の学生諸君はこれら**基礎科目群から12単位以上**の修得を求められます。

2年次以降は、会計を主たる専門とする会計コースとファイナンス（金融）を中心に学ぶファイナンス・コースから一つのコースを選択します。将来会計士や税理士を目指す人、また企業の財務部門に就職を希望する人は会計コースを選択してください。銀行、証券会社また保険など金融分野への就職を希望する人はファイナンス・コースを選択してください。

会計コースでは、基本科目として日商簿記1級合格を目指す財務会計総論、財務会計応用論、原価計算論を、展開科目として管理会計論を配置しています。

ファイナンス・コースでは、基本科目として証券外務員2種試験に対応する証券市場論、またファイナンシャル・プランナー試験に対応した金融商品取引法を配置し、展開科目としてファイナンシャルプランも開設しています。**基本科目群および展開科目群から20単位以上**の修得を必要とします。

ゼミナール科目群には1年次生を対象とした基礎ゼミナールⅠ、Ⅱ、また2年次生を対象とした専門ゼミナールⅠ、Ⅱ、3年次生には応用ゼミナールⅠ、Ⅱ、4年次生には応用ゼミナールⅢと卒業論文が配置されています。これら**ゼミナール科目群から6単位以上**の修得が求められます。

専門科目では、基礎科目群、基本科目群、展開科目群、国際科目群とゼミナール科目群を合わせて**合計80単位以上**の修得が卒業に必要な単位数となります。

2. 会計ファイナンス学科の卒業要件

<2018年度以降入学生>

授業科目の区分		最低必要単位数	
教養科目	基礎科目群	8 単位以上	合計 24 単位以上
	人文・社会・健康・ 自然科目群		
	キャリア・総合科目群		
	グローバル科目群		
専門科目	基礎科目群	12 単位以上	合計 80 単位以上
	ゼミナール科目群	6 単位以上	
	実践科目群		
	基本科目群	20 単位以上	
	展開科目群		
	国際科目群		
自由選択科目			※
			合計 124 単位以上

※ 他学部・他学科授業科目の単位を修得した場合、自由選択科目として、20 単位を上限に卒業要件(最低必要単位数)に含めることができる。

3. 会計ファイナンス学科の授業科目一覧表

<2019～2020年度入学生>

区分	1年次	2年次	3年次	4年次			
教養科目	基礎科目群	英語ⅠA・ⅡA 英語ⅠB・ⅡB 初級独語A・B・C・D 初級仏語A・B・C・D 初級中国語A・B・C・D 初級韓国語A・B・C・D 論述・作文A 論述・作文B コンピュータ基礎A コンピュータ基礎B	英語ⅢA・ⅣA 英語ⅢB・ⅣB 応用英語A・B・C・D 応用独語A・B・C・D 応用仏語A・B・C・D 応用中国語A・B・C・D 応用韓国語A・B・C・D コンピュータ応用A コンピュータ応用B コンピュータ応用C			8単位以上修得	合計24単位以上修得
	人文・社会・健康・自然科目群	哲学、倫理学、宗教学、日本史、日本近代史、北海道史、世界史A・B、世界の民族音楽、東洋の美術、ヨーロッパの美術、世界の言語と日本語、言語と社会、言語と数理、日本文学、外国文学、現代と法、日本国憲法、人権論、くらしと現代経済、社会学、北海道社会論、アジア事情A、アジア事情B、教育学、現代の福祉、現代と情報、心理学、健康科学、スポーツと健康、統計学、物理学、地学、地球の科学、生命科学、生態進化学、環境論					
キャリア・総合科目群	キャリア数学A	キャリア数学B	キャリア数学C				
		企業の経営と仕事					
	教養ゼミナールA・B						
		全学共通特別演習A・B	全学共通特別演習C・D				
グローバル科目群	TOEICトレーニングA・B・C・D、日本語を教えるA・B						

科目区分	1年次	2年次	3年次	4年次		
専門科目	基礎科目群				12単位以上修得	合計80単位以上修得
	ゼミナール科目群	基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ	専門ゼミナールⅠ 専門ゼミナールⅡ	応用ゼミナールⅠ 応用ゼミナールⅡ	応用ゼミナールⅢ 卒業論文	
実践科目群		フィールド実践Ⅰ フィールド実践Ⅱ	フィールド実践Ⅲ			20単位以上修得
		マーケティング実践Ⅰ マーケティング実践Ⅱ	マーケティング実践Ⅲ			
		プロジェクト実践Ⅰ プロジェクト実践Ⅱ	プロジェクト実践Ⅲ			
基本科目群	経営管理概論 マーケティング概論	財務会計総論、財務会計応用論、原価計算論、金融システム論、証券市場論、中小企業論、ファイナンシャルプランⅠ、ファイナンシャルプランⅡ、会社法、英文会計、ビジネス英語、ビジネス韓国語、ビジネス中国語、ビジネス数学Ⅰ、職業指導、商業概論				
			職業と人生A、キャリアデザイン演習A、地域貢献活動A・B・C・D			
展開科目群			職業と人生B、キャリアデザイン演習B	職業と人生C、職業と人生D		
				職業と人生D		
国際科目群			管理会計論、国際会計論、中小企業金融論、地域金融論、国際金融論、保険論、経営管理論、ボランティアマネジメント論、ビジネス数学Ⅱ、キャリアマーケティング、キャリアデザインⅠ、キャリアデザインⅡ、インターンシップ			
			地域金融特別講義			
		異文化グループワークA、異文化グループワークB、プロジェクトマネジメント入門、短期国際インターンシップA 海外スタディⅠ、グローバルインターンシップⅠ、グローバルボランティアⅠ	海外スタディⅡ、グローバルインターンシップⅡ、グローバルボランティアⅡ			
	短期国際インターンシップB(4年生は履修不可)					
		長期国際インターンシップ(4年生は履修不可)				

経営学部会計ファイナンス学科専門科目開講一覧表

2019～2020年度入学生

(参考)2025年度以降入学生 2021～2024年度入学生 2019～2020年度入学生

区分	授業科目名	授業科目名	授業科目名	単位	学年	期間	担当者	備考
基礎科目群	経営学入門	経営学入門 I	経営学入門 I	2	1	前期	平野 実	
	現代ビジネス論(2)	経営学入門 II	経営学入門 II	2	1	前期	碓井 和弘	リレー講義 (1)は履修不可
	会計学入門	ファイナンス入門 I	ファイナンス入門 I	2	1	後期	長岡 正	
		ファイナンス入門 II	ファイナンス入門 II	2	1	-	-	以降休講
				2	1	-	-	以降休講
	簿記 I	個人企業会計基礎	個人企業会計基礎	4	1	前期週2	(1)坂口 勝幸 (2)宮津 尚美	
	簿記 II	株式会社会計基礎	株式会社会計基礎	4	1	前期週2	坂口 勝幸	
	工業簿記	製造業会計基礎	製造業会計基礎	4	1	後期前半週4 後期週2	(1)坂口 勝幸 (2)宮津 尚美	
		個人企業会計基礎演習	個人企業会計基礎演習	2	1	-	-	以降休講
		株式会社会計基礎演習	株式会社会計基礎演習	2	1	-	-	以降休講
ゼミナール科目群	基礎ゼミナール I	基礎ゼミナール II		2	1	前期	碓井 和弘 河西 邦人 川渕 正広 岸本 宜久 後藤 英之 坂口 勝幸 邵 藍蘭 長岡 正 橋長 真紀子	
				2	1	後期	平野 実 黄 昕 矢川 美恵子 吉川 哲生	
	専門ゼミナール I	専門ゼミナール II		2	2	前期	碓井 和弘 河西 邦人 後藤 英之 坂口 勝幸 邵 藍蘭 長岡 正 橋長 真紀子	
				2	2	後期	平野 実 黄 昕 矢川 美恵子 吉川 哲生	
	応用ゼミナール I	応用ゼミナール II		2	3	前期	碓井 和弘 河西 邦人 後藤 英之 坂口 勝幸 邵 藍蘭 長岡 正 橋長 真紀子	
				2	3	後期	黄 昕 矢川 美恵子 吉川 哲生	
専門科目	応用ゼミナール III			2	4	前期	碓井 和弘 河西 邦人 後藤 英之 坂口 勝幸 邵 藍蘭 長岡 正 橋長 真紀子	
				2	4	後期	黄 昕 矢川 美恵子 吉川 哲生	
	卒業論文			4	4	通年	碓井 和弘 河西 邦人 邵 藍蘭 長岡 正 吉川 哲生	
	プロジェクト実践 I	プロジェクト実践 II	フィールド実践 I フィールド実践 II	2	2	前期	碓井 和弘 河西 邦人 橋長 真紀子	
	プロジェクト実践 I	プロジェクト実践 II	プロジェクト実践 I プロジェクト実践 II	2	2	後期	平野 実 黄 昕 吉川 哲生	
実践科目群	フィールド実践	フィールド実践 III プロジェクト実践 III マーケティング実践 III		4	3	通年	碓井 和弘 河西 邦人 後藤 英之 橋長 真紀子 黄 昕 吉川 哲生	
	2021～2024年度入学生は自由選択科目 2025年度以降入学生は教養科目として履修可能	地域貢献A		2	1	前期	(1)浅沼、濱野 (2)林 匡宏	
		地域貢献C		2	1	後期	林 匡宏	
		地域貢献活動A		1	1	前期	教務部長	単位認定科目
		地域貢献活動B		1	1	-	-	2025年度休講
		地域貢献活動C		1	1	後期	教務部長	単位認定科目
	地域貢献活動D		1	1	-	-	2025年度休講	
	2025年度以降は 教養科目として履修可能	職業と人生A		2	1	後期	別当屋敷 美穂	
		職業と人生B		2	2	前期	別当屋敷 美穂	
		職業と人生C		2	3	前期	(1)廣崎 匡	
職業と人生D			2	3	後期	(2)平野 恵子		
キャリアデザイン演習A			2	1	後期	松代 弘之		
キャリアデザイン演習B		2	2	前期	松代 弘之			

(参考)2025年度以降入学生 2021～2024年度入学生 2019～2020年度入学生

区分	授業科目名	授業科目名	授業科目名	単位	学年	期間	担当者	備考	
基本 科目群			経営管理概論	2	1	—	—	以降休講	
		マーケティング概論		2	1	後期	碓井 和弘		
		財務会計論	財務会計総論	4	2	後期週2	邵 藍蘭		
			財務会計応用論	4	2	—	—	以降休講	
		原価計算論		2	2	前期	長岡 正		
			金融システム論	4	2	—	—	以降休講	
			証券市場論	4	2	—	—	以降休講	
			中小企業論	2	2	後期	三好 元		
		ファイナンシャルプランⅠ		2	2	前期	中谷 俊雄		
		ファイナンシャルプランⅡ		2	2	後期	中谷 俊雄		
			会社法	4	2	—	—	以降休講	
			英文会計	2	2	—	—	以降休講	
			ビジネス英語	2	2	後期	橋長 真紀子		
			ビジネス韓国語	2	2	後期	吉川 敬花		
			ビジネス中国語	2	2	後期	黄 昕		
			ビジネス数学Ⅰ	2	2	—	—	以降休講	
		職業指導Ⅰ・Ⅱ	職業指導	4	2	通年	川瀬 正広	教職関連科目	
		商業概論Ⅰ・Ⅱ	商業概論	商業演習	4	2	通年	川瀬 正広	教職関連科目
	専門 科目群			管理会計論	4	3	後期週2	長岡 正	
			国際会計論		2	3	後期	邵 藍蘭	
			中小企業金融論	4	3	—	—	以降休講	
			地域金融論	2	3	—	—	以降休講	
			国際金融論	4	3	通年	吉川 哲生		
			保険論	4	3	—	—	以降休講	
		経営管理論(2)		2	3	後期	平野 実	(1)は2025年度以降入学生	
		ボランティアマネジメント論		2	3	前期	草野 竹史		
			ビジネス数学Ⅱ	2	3	—	—	以降休講	
			キャリアデザインⅠ	2	3	—	—	以降休講	
			キャリアデザインⅡ	2	3	—	—	以降休講	
		キャリアマーケティング		2	3	後期	碓井 和弘		
			インターンシップ	4	3	—	—	以降休講	
			地域金融特別講義	2	3	—	—	以降休講	
国際 科目群			異文化グループワークA		2	1	前期	白石、ヒンクルマン	
			異文化グループワークB		2	1	—	—	2025年度休講
			プロジェクトマネジメント入門		2	1	前期前半 後期後半	(1)櫻澤、勝部 (2)諸 洪一	(2)は履修不可
		海外スタディⅠ		2	1	後期 通年	(1)黄 昕 (2)諸 洪一 (3)ハメット D.A.		
		海外スタディⅡ		2	1	後期 通年	(1)黄 昕 (2)諸 洪一		
		グローバルインターンシップⅠ		2	1	通年 前期	(1)白石・早川 (2)ヒンクルマン D.W.		
		グローバルインターンシップⅡ		2	1	通年 後期	(1)白石・早川 (2)ヒンクルマン D.W.		
		2021～2024年度入学生は自由選択科目	グローバルボランティアⅠ	2	1	—	—	2025年度休講	
		2025年度以降入学生はその他科目として履修可能	グローバルボランティアⅡ	2	1	—	—	2025年度休講	
			短期国際インターンシップA	4	1	通年集中	橋長・矢川	夏期休暇期間	
			短期国際インターンシップB	4	1～3	後期集中	橋長・矢川	春期休暇期間	
			長期国際インターンシップ	16	2～3	後期集中	橋長・矢川		

※各科目の定員は情報ポータル履修登録画面を確認してください。

※「短期国際インターンシップB」および「長期国際インターンシップ」は、成績の決定が次年度になります。
そのため4年生での履修はできません。なお、4年生でも、休学等によって卒業年次に該当しない場合、履修を認めることがあります。

※2018～2020年度経営学部会計ファイナンス学科入学生については、以下の科目を専門科目として認定します。
職業と人生A・B・C・D、キャリアデザイン演習A・B、地域貢献A・B・C・D、地域貢献活動A・B・C・D、異文化グループワークA・B、海外スタディⅠ・Ⅱ
プロジェクトマネジメント入門、グローバルインターンシップⅠ・Ⅱ、グローバルボランティアⅠ・Ⅱ

◆ 経営学部履修細則

平成21年4月1日制定

目次

- 第1章 総則（第1条）
- 第2章 学科課程及び授業科目（第2条—第4条）
- 第3章 履修科目の登録及び履修方法（第5条—第9条）
- 第4章 試験及び単位の認定（第10条—第15条）
- 第5章 卒業見込証明書の発行（第16条）
- 第6章 編入学及び転学部・転学科（第17条）
- 第7章 早期卒業（第18条—第26条）

附則

第1章 総則

（趣旨）

第1条 この細則は、札幌学院大学学則（以下「学則」という。）第20条及び第21条第2項の規定に基づき、経営学部学生の履修並びに早期卒業に必要な事項を定める。

2 この細則に定めのない事項又はこの細則によりがたい事情のあるものについては、経営学部教授会で、特別の定めをすることができる。

第2章 学科課程及び授業科目

（課程修了の要件）

第2条 経営学科、会計ファイナンス学科の学則第10条、第11条及び第12条に規定する課程修了の要件は、次表によるものとする。

経営学科

授業科目の区分		最低必要単位数	
教養科目	基礎科目群	指定の基礎科目群から8単位以上	合計24単位以上
	人文・社会・健康・ 自然科目群		
	キャリア・総合科目群		
	グローバル科目群		
専門科目	基礎科目群	6単位以上	合計80単位以上
	ゼミナール科目群 及び実践科目群	6単位以上	
	基本科目群、展開科目群及び 国際科目群	20単位以上	
自由選択科目			
合計			124単位以上

会計ファイナンス学科

授業科目の区分		最低必要単位数	
教養科目	基礎科目群	指定の基礎科目群から8単位以上	合計24単位以上
	人文・社会・健康・ 自然科目群		
	キャリア・総合科目群		
	グローバル科目群		
専門科目	基礎科目群	12単位以上	合計80単位以上
	ゼミナール科目群 及び実践科目群	6単位以上	
	基本科目群、展開科目群及び 国際科目群	20単位以上	
自由選択科目			
合計			124単位以上

2 他学部・他学科授業科目、他大学等の授業科目で単位を修得した場合、自由選択科目として、20単位を上限に課程修了の要件（最低必要単位数）に含めることができる。

第3条 学則第8条の2に規定する授業科目については、選択必修科目及び選択科目に区分する。

(授業科目の編成)

第4条 各学科における授業科目の編成については、別に定める。

第3章 履修科目の登録及び履修方法

(履修の登録)

第5条 学生は、毎年、毎学年当初の指定された登録期間に、履修科目を登録しなければならない。

2 前項の登録を行った学生は、必要がある場合には後期開始当初の指定された登録期間に後期履修科目の変更を行うことができる。

3 第1項の規定にかかわらず、次の各号の一に該当するときは、別に指定する日に所定の履修届を提出することにより後期のみの履修登録を認める場合がある。

(1) 前期に休学し、後期から復学する場合

(2) 学則第13条の2で規定する他の大学又は短期大学における授業科目の履修あるいは同第13条の2第2項で規定する外国の大学又は短期大学への留学のため、学年の始めに履修科目の登録ができなかった場合

(履修登録の承認)

第6条 前条に規定する履修科目のうち基礎ゼミナールⅠ・Ⅱ、専門ゼミナールⅠ・Ⅱ、応用ゼミナールⅠ・Ⅱ・Ⅲ及び卒論論文については、事前に担当教員の承認を受けるものとする。

(履修登録制限)

第7条 履修登録は、第2条で指定する授業科目について、次表の単位数を越えることはできない。ただし、短期国際インターンシップA及び短期国際インターンシップBは、履修登録制限単位数から除外するものとする。

1年次	2年次	3年次	4年次	計
48単位	48単位	48単位	48単位	192単位

(他学部・他学科授業科目の履修)

第8条 学則第12条に規定する他学科及び他学部へ属する授業科目の履修については、別に定めるところによる。

(諸資格課程)

第9条 学則第14条、第15条及び第16条に規定する教職課程、学芸員課程及び社会教育主事については、別に定めるところによる。

第4章 試験及び単位の認定

(出席制度)

第10条 授業科目において、出席制度を採用することができる。

(単位の認定)

第11条 各授業科目における単位の認定は、原則として試験によって行う。ただし、試験によりがたい科目については、レポート及び平素の成績によって認定することができる。

(定期試験)

第12条 試験は各学期末定期試験、各学期の中間試験及び担当者の判断により随時行う試験とし、各科目毎に年2回以上実施することを原則とする。

2 前項の試験実施において、1授業項目の試験のうち1回でも受験を放棄した場合は、原則として当該履修科目は無効とする。

3 受験資格、注意事項等については、別に定めるところによる。

(追試験)

第13条 前条に規定する試験を受験できなかった者に対し、追試験を行うことがある。

2 追試験の受験資格等については、別に定めるところによる。

(再試験)

第14条 第13条に規定する定期試験において合格点に達しなかった者に対し、再試験を行うことがある。

2 前項に規定する再試験は、外国語科目及び専門科目のみとする。

3 再試験の受験資格等については、別に定めるところによる。

(不正行為の処置)

第15条 試験において、不正行為が行われた場合は、当該試験期間の全受験科目(平常点評価科目・レポート提出科目は除く)の単位を認めない。また、教授会は当該学生に対して適当な処置を行うことができる。

2 前項の処置については、公示する。

第5章 卒業見込証明書の発行

(卒業見込証明書の発行基準)

第16条 第3学年末において卒業に必要な単位数のうち90単位以上を修得し、かつ指定された登録日に授業科目の履修届を提出した者には、卒業見込証明書を発行する。

2 前項の基準に満たない者については、第4学年前期成績を考慮して卒業見込証明書を発行することができる。

3 前2項により卒業見込証明書を発行する者であっても、当年度内に卒業条件を満たすことができないことが判明した場合には、卒業見込証明書を発行しない。

4 4年以上在学し、卒業延期となった者については、前3項を準用する。

第6章 編入学及び転学部・転学科

(編入学及び転学部・転学科)

第17条 学則第33条及び第34条に規定する編入学及び転学部・転学科の取扱い、単位の認定並びに履修方法等については、別に定めるところによる。

第7章 早期卒業

(対象学生)

第18条 学則第21条第2項の定め(以下「早期卒業」という。)の対象となる学生は、経営学部3年以上在学し、第2条に定める課程修了の要件を満たすとともに、当該要件に示す単位を優秀な成績をもって修得し、かつ、早期卒業することによるその後の教育効果が著しいと認められる者とする。

(早期卒業制度適用の申請資格)

第19条 早期卒業制度の適用を申請する者は、3年次の前期終了時において100単位以上を修得し、かつ、第24条に定める方法によって算出した成績平均値が原則として3.0以上の評価を受けていなければならない。

(早期卒業制度適用の願い出)

第20条 前条の基準を満たし、早期卒業制度の適用を希望する者は、3年次の9月末日(休日の場合はその前日)までに学部長に別に定める様式により、その旨を願い出るものとする。ただし、やむを得ない事情があると認める場合は、3年次の1月末日までに願い出ることができる。

(早期卒業制度適用を願い出た者の認定)

第21条 前条による早期卒業制度適用を願い出た者は、学部長及び指導教員による面接を行った上で、教授会に於いて早期卒業予定者として認定を行う。

(学習指導)

第22条 学部長及び指導教員は、早期卒業予定者に対して、第26条に基づく判定が下されるまでの間、早期卒業に関する適切な学習指導を行うものとする。その際、指導教員は学部長に学生の早期卒業に向けた指導計画書を提出するものとする。また、早期卒業予定者は、指導教員に対して1月末日までに別に定める修学報告書ないしは研究レポートを提出するものとする。

(早期卒業希望の取消し)

第23条 早期卒業予定者が早期卒業を希望しなくなった場合は、学部長及び指導教員に速やかに届け出なければならない。

(成績平均値)

第24条 成績平均値(GPA)は、次の算出方法によって計算するものとする。

(1) 履修した科目の評価で付与された素点が90以上の場合は4、80から89までの場合は3、70から79までの場合は2、60から69までの場合は1、素点が60未満の場合及び試験欠席の場合は0を当該履修科目のGPとする。

(2) GPに当該科目の単位数を乗じ、その総和を履修登録単位数で除し、小数点第3位を四捨五

入して得た数をG P Aとする。

(早期卒業の要件)

第25条 早期卒業の判定を受けるためには、3年次の終了時において、次に掲げる要件を満たしていなければならない。

- (1) 第2条に定める課程修了の要件となる単位を全て修得していること。
- (2) 成績平均値が原則として3.0以上の評価を得ていること。
- (3) 大学院進学又は高度な国家試験合格による就職等の進路が確定していること。

(早期卒業の判定)

第26条 教授会は、第21条により認定した早期卒業予定者について、前条に掲げる要件を確認し、指導教員より指導経過報告を求め、早期卒業予定者からの修学報告書ないしは研究レポート並びにこれまでの修学状況を勘案し、早期卒業の判定を行う。

附 則

この規程は、平成21年4月1日から施行する。

附 則

- 1 この細則は、平成22年4月1日から施行する。
- 2 早期卒業に関しては、平成22年3月31日に在籍する商学部及び経営学部の学生に適用する。

附 則

この細則は、平成23年4月1日から施行する。

附 則

この細則は、平成25年4月1日から施行する。

附 則

この細則は、平成26年4月1日から施行する。

附 則

この細則は、平成27年4月1日から施行する。

附 則

この細則は、平成29年4月1日から施行する。

附 則

この細則は、平成30年4月1日から施行する。

附 則

この細則は、平成30年10月1日から施行する。

第24条第1項第1号のG P換算は平成26年度以前に履修した科目については、下表のように換算する。

平成26年度以前 成績評価・素点	G P
A・90~100	4.0
A・80~89	3.0
B・70~79	2.0
B・60~69	1.5
C・50~59	1.0
D・30~49	0.0
E・00~29	0.0

履修細則変更に伴う移行措置

《2013～2017年度入学生適用》

「札幌学院大学経営学部履修細則」の変更（2018年4月1日施行）に伴い、2013～2017年度入学生には次の移行措置を講ずる。なお、この移行措置は、札幌学院大学学則21条に定める卒業時まで適用するものとする。

（課程修了の要件）

第2条 経営学科、会計ファイナンス学科の学則第10条、第11条及び第12条に規定する課程修了の要件は、次表によるものとする。

経営学科

授業科目の区分		最低必要単位数	
教養科目	基礎科目群	指定の基礎科目群から8単位以上	合計24単位以上
	人文・社会・健康・ 自然科目群		
	キャリア・総合科目群		
	グローバル科目群		
専門科目	基礎科目群	6単位以上	合計90単位以上
	ゼミナール科目群 及び実践科目群	6単位以上	
	基本科目群及び 展開科目群	20単位以上	
自由選択科目			
合計			124単位以上

会計ファイナンス学科

授業科目の区分		最低必要単位数	
教養科目	基礎科目群	指定の基礎科目群から8単位以上	合計24単位以上
	人文・社会・健康・ 自然科目群		
	キャリア・総合科目群		
	グローバル科目群		
専門科目	基礎科目群	12単位以上	合計90単位以上
	ゼミナール科目群 及び実践科目群	6単位以上	
	基本科目群及び 展開科目群	20単位以上	
自由選択科目			
合計			124単位以上

- 2 本学部が指定する以外の全学共通科目及び他学部・他学科授業科目、他大学等の授業科目で単位を修得した場合、自由選択科目として、10単位を上限に課程修了の要件（最低必要単位数）に含めることができる。
- 3 外国人留学生については、教養科目の「日本事情A」及び「日本事情B」を指定必修科目とする。（最高履修単位数）

第7条 第2条で指定する授業科目について、学生が各年次において登録することができる最高履修単位数は、次表によるものとする。

1年次	2年次	3年次	4年次	計
48単位	48単位	48単位	48単位	192単位